

シソ「認知症原因物質を抑制」

市民大学 室工大・徳染教授が講演



講演は「北海道食材で認知症を予防する」がテーマ。認知症や同大の研究への理解を深めてもら

おと企画し、約80人が出席した。自身の父もアルツハイマー病を患ったという徳

室蘭の文化や歴史を学ぶ市民講座「室蘭港立市民大学」が20日、市文化センター（幸町）で開かれ、アルツハイマー病の発症原因とされるタンパク質を研究している室蘭工業大の徳染清孝教授（生物化学）が講演した。徳染教授はシソに病気の原因とされるタンパク質の凝集を抑制する効果があると突き止めたことなどを紹介し、「研究成果をアルツハイマー病の予防や治療に役立てていきたい」と述べた。

研究成果「予防や治療に」

教授「人はおいしく食べながら病気になりにくい体を作っていくことができる」と話す徳染

アルツハイマー病の原因については、タンパク質「アミロイドβ」が脳内で凝集し、蓄積することが原因と解説。凝集を抑える物質を効果的

に探す顕微鏡を活用したシステムを開発し、示

染教授。「穏やかだった父が食事の食べ方について急に厳しく言うようになった」ことなどがきっかけで認知症の診断を受けたことを明かし、記憶障害や運動機能の低下がみられることなど、アルツハイマー型認知症の症状を説明した。

判明し、シソが特産の銅

た。
シソシソースも有効と

果、タイムなどシソ科のハーブにアミロイドβの凝集抑制効果が高いことを突き止めたこと

（伊藤空那）

これらの病気にも応用できる」と期待を語った。

発した（顕微鏡を活用した）システムはパーキンソン病やリウマチに関わる凝集も可視化できる。

し、今後については「開発した（顕微鏡を活用した）システムはパーキンソン病やリウマチに関わる凝集も可視化できる。これらの病気にも応用できる」と期待を語った。

路管内白糠町の協力を得て赤シソと青シソを調べたことも報告した。

動物実験でも一定の効果を確認されているとし、今後については「開発した（顕微鏡を活用した）システムはパーキンソン病やリウマチに関わる凝集も可視化できる。これらの病気にも応用できる」と期待を語った。